

带状疱疹の予防接種を受けられる方へ

<ワクチンの副反応>

带状疱疹の予防接種は、50歳以上の方が接種対象者となります。

この場合、接種後の副反応として注射部位の局所症状(赤み、かゆみ、熱くなる、腫れ、痛み、硬くなる)、発疹、倦怠感などが報告されています。また非常にまれですが、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、口唇のまわりの腫れなど)や、血小板減少性紫斑病(皮下出血、鼻血、歯ぐきの出血など)がみられることがあります。何か異常が認められた場合には、すぐに医師に申し出てください。

<予防接種を受けるときの注意>

- ① ワクチンの必要性や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう。
- ② 受ける前日は入浴(またはシャワー)をして、体を清潔にしましょう。
- ③ 当日は体調をよく観察して、普段と変わったところのないことを確認してください。
- ④ 清潔な着衣をつけましょう。
- ⑤ 予診票は医師への大切な情報です。正確に記入するようにしましょう。
- ⑥ 予防接種を受ける方がご婦人の場合、あらかじめ約1カ月間は避妊しておきましょう。

<予防接種を受けることができない人>

- ① 明らかに発熱のある人(37.5℃以上)。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- ③ 水痘・带状疱疹を予防するワクチンに含まれる成分で、過去にアナフィラキシーを起こしたことがある人。
なお、他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前に医師へその旨を伝え、判断を仰いでください。
- ④ 妊娠していることが明らかな人。
- ⑤ 先天性及び後天性免疫不全状態の人。
例えば、急性及び慢性白血病、リンパ腫、骨髄やリンパ系に影響を与えるその他疾患、HIV感染またはAIDSによる免疫抑制状態、細胞性免疫不全などによる。
- ⑥ 副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤などの治療を受けており、明らかに免疫抑制状態の人。
- ⑦ その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人。

<予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない人>

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの基礎疾患がある人。
- ② カゼなどのひきはじめと思われる人。
- ③ 予防接種で接種後2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人。
- ④ 薬の投与または食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人。
- ⑤ 今までにけいれんを起こしたことがある人。
- ⑥ 過去に免疫不全と診断されたことがある人、及び近親者に先天性免疫不全の人がいる人。
- ⑦ 水痘・带状疱疹を予防するワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある人。
- ⑧ 妊娠の可能性のある人。

<他のワクチンとの接種間隔>

生ワクチンの接種を受けた方は、通常、27日以上間隔をおいてこのワクチンを接種してください。また、不活化ワクチンの接種を受けた方は、通常、6日以上間隔をおいてこのワクチンを接種してください。ただし、医師が必要と認めた場合には、同時に接種することができます。

<予防接種を受けた後の注意>

- ① 接種後30分間は病院にいるなどして様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後4週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。また、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤ 高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ⑥ 接種後2カ月間は妊娠しないように注意してください。

あなたの接種予定日	医療機関名
月 日()です。 当日は受付に 時 分頃 おこしてください。	